

学校評価シート（自己評価）令和 6 年（2024 年度）

越生みどり幼稚園

1、園の教育目標

【幼稚園教育目標】「JOY HOPE LOVE」 喜びと希望と愛をもって育つ子

○ げんきな子 《健康な心と体》

＊幼稚園を楽しむ(すみれ) 楽しんで遊ぶ(ゆり) 楽しんでいっしょに遊ぶ(きく)

・ 進んで遊びや運動を楽しむ ・ 遊びを通して豊かな感性や表現を身に着ける。

○ 考える子《学びに向かう力》

＊心動かす体験をする(すみれ) 自分でやりたいことが生まれる(ゆり)

最後までやり遂げる力を持つ(きく)

・ 自分の力で考えて行動する ・ みんなで決めた約束を守る ・ 目を見てお話を聞く

○ なかよくできる子 《協同性》

＊お友だちに気づく(すみれ) お友だちに気づいて気持ちを伝える(ゆり)

お友だちの気持ちを受け止め思いを伝え合う(きく)

・ 友達といっしょに遊ぶ ・ 相手を思いやる ・ 自然の中で動植物に親しみをもって大切にする

2、具体的な目標や計画

- ・ 子どもたちの生き生きとした活動を援助するため、チーム保育(様々な関わり)を実践し、保育者も園児も、共に生き生きと生きる幼稚園を目指す。
- ・ 日常的に園の周りの環境を生かした山保育を行い、体幹を鍛え、心も体も健康に育てる。
- ・ 子どもたちの自主自立を重んじ、教諭が教え込む保育ではなく、こどもと共に話し合い作り出す保育を目指す
- ・ 同じように教諭同士も、毎日、保育について語り合う時間を持つ。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
2 歳児から 3 歳児への切れ目のない対応(幼稚園接続保育)を推進する。 一時預かり事業の推進	A	・プレ幼稚園うさぎ組を開始してから 10 年になる。2 歳児から幼稚園へ来ることによって、基本的な生活習慣が獲得でき、先生、お友だちとの触れ合いを通して成長し、3 歳児での入園にスムーズにつながる能够做到。 ・「子ども誰でも通園制度」を受け、どのようにしたら当園

		らしいやりかたができるかを考えている。 幼稚園独自のやり方を考え制度を作っておいて柔軟に対応できるようにした。(令和 6 年度は未実施) ・ 預かり保育利用者の数の増大(15～20 人)に対応するため、担当を一人ではなく常に 2 人とした。
教諭のためのノンコンタクトタイムを作っていく。	C	・ 教諭のノンコンタクトタイムを通常の保育時間にも作れるように声かけをした。教諭の働き方改革や、休憩の取り方なども考えていく必要がある。 ・ チーム保育の中で、交代しながら休憩をとれるようにこれからも工夫していきたい。 ・ 日本の教育職は一日のうちにほっとする時間がとれないことが多いし、昼食時も子どもと一緒にのため、休憩の時間もなく、一日中働き続けている。 ・ 今年度はほんのわずかではあったが、休憩を利用する教諭がでてきた。 自分とチームの先生との兼ね合いで上手にノンコンタクトタイムをとれるようになりつつある。
園の周りの環境を整える。	A	・ 一番古い東側の保育室 2 部屋の屋根に遮熱塗料を塗った。 ・ 裏の崖は子どもたちの大好きな遊び場所なので、日常的に自由に遊べるように自然を残しながら丁寧な整備を 3 回行った。(環境整備の保護者3名が参加) ・ 以前シカが出たこともあり、雑木林のままだと害獣が近づくことも聞いているので、今年はサポーターのお父さん方の伐採が進み、子どもたちが自由に遊べるようになった。 ・ 下の駐車場ののり面が町の河川工事のためあらわになり、崖のように見えるようになった。 駐車するのに怖くないように柵と車止めを設置した。

4, 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	・ 施設型給付の幼稚園に移行して経営も安定し、安心して保育に向き合うことができている。 ・ 保護者の声を受け、いつでも来られるスペースづくりを新たに考えた。 ・ 多くの保護者支援の活動が上手に機能し、幼稚園がこれからも子どもと親のためのスペースであることをアピールしていきたい。 ・ 職員間では、こまめにミーティングを行い、チームとして声を掛け合って保育にのぞんだ。これからもよく話し合い一緒に働く仲間としてよい職場づくりをしていきたい。

○結果(※)について

A	十分達成されている
Ⓑ	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
2 歳児から 3 歳児への切れ目のない対応(幼稚園接続保育)を推進する。	・ 「子ども誰でも通園制度」を受け、どのようにしたら当園らしいやりかたができるかを考えていく。幼稚園独自のやり方を模索したい。(制度を作っておいて柔軟に対応する。) ・ 預かり保育利用者の数の増大に対応するため、担当を一人ではなく常に 2 人とする。また、2 歳児から預かりを利用できるように制度を作る。 ・ 対象は2歳からの幼稚園児の下の子及びひよこ、うさぎ参加者から始める。このことにより下の子を預けたい保護者の助けとなるようにしていきたい。 ・ うさぎ組が 10 年を迎えたことをうけ、7 年度から「まいにちうさぎ」を始める。
教諭のためのノンコンタクトタイムを作っていく。	・ 前理事長と相談し 3 学期終了式後の 20～24 日日をノンコンタクトタイム(指導要録作成のための時間)とすることとなった。 ・ 教諭のノンコンタクトタイムを通常の保育時間にも作れるように少しずつ整えていく。今後、教諭の働き方改革や、休憩の取り方なども考えていく必要がある。 ・ チーム保育の中で、交代しながら休憩をとれるように工夫していきたい。 ・ 新しい試みだが、日本の教育職は一日のうちにほっとする時間がとれないことが多

	いし、昼食時も子どもと一緒に、休憩の時間もなく一日働き続けている。 教諭の休憩となる時間を作り出すことができるように考えていきたい。
幼稚園を積極的に開放する。	・ 幼稚園では、遊び場の少ない未満児さんとお母様のために、新たに「グリーンリボン」という活動考えた。 これまでは園庭開放は月に 2 回の決まった日だけで、その日に都合が悪かったり、体調を崩したりすると、行けないので残念という保護者の声を受け、幼稚園がもっとできることがあるのではと考えた。 そして、いつでも来て、ゆっくりできるスペースづくりを考えたいと思い、6 年度から新たに幼稚園に来て自由に遊べる「グリーンリボン」という新しい子育て支援を始めた。 ・ この活動が浸透し、幼稚園が開かれた子育ての場所となるようにしたい。 ・ まいにちうさぎとのバランスがあるので、グリーンリボンさんの居場所づくりを考えたい。 ・ 幼稚園を使ってマルシェを行いたいという卒園児の保護者からの申し出を受け、町の活性化と、親子支援のために、幼稚園の開放を行いたい。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日 時 令和7年 4月 22日(火) 13:00～14:00

出席者 評価委員(4)人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

- ・ 適切である
- ・ 子どもの年齢に応じた目標を達成するための具体的な計画が細かく設定されていたと思う。
- ・ とても明るく伸び伸びと活動しており、おたがいに助け合い一年間たくましい成長が伺える。
- ・ この地の環境を生かし、動植物に興味を持ち季節ごとに違いを見つけている。特に虫や花の命の大切さなど知る様子が見られる。

2. 評価結果の内容は適切であったか

- ・ 適切である
- ・ ノンコンタクトタイムづくりが「C」評価だったので、総合評価は「B」であったが、改善の努力が見られる。少しずつ工夫していけたらよい。
- ・ プレ幼稚園を経験することで少しずつ幼稚園に慣れ、入園後もスムーズにつながっている。
- ・ 預かり保育の必要性が大きくなり、人数が増えたところで担当者が2人になったことはよかった。
- ・ 園舎内外に危険がないか常にチェックして園児が使いやすいように保育者が常に見守り続けている。保護者(特に父親)の参加が多く積極的に活動に取り組んでいる姿が見受けられる。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

- ・ 適切である。
- ・ 3つの課題設定は適切に設定されている。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・ 適切である
- ・ 新しく始まったグリーンリボンはとても良い子育て支援になっている。幼稚園の積極的な開放によって、開かれた幼稚園としてみんなで子育てすることが大事だと思う。
- ・ それぞれの課題に対し、具体的な取り組み方法と取り組み内容が示されており、改善や課題解決が期待される。